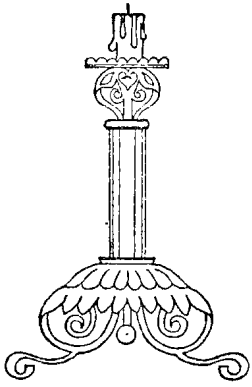
# 中原中也全集

## 別卷



## 本文補遺
## 研究篇

中原中也全集　別巻
本文補遺・研究篇

1971年5月20日　初版發行
1979年5月10日　5版發行

著者　中原中也
編者　大岡昇平
　　中村稔
　　吉田凞生
發行者　角川春樹
印刷者　中内あき子
發行所　角川書店
東京都千代田區富士見
2の13 Tel (265)7111
振替東京3-195208
中光印刷・鈴木製本
0395-571706-0946(0)

# 目

# 次

## 本文補遺


青木三造　七
高橋新吉論　一〇
詩と詩人　一四
感情喪失時代　一七
非文學的文士　二一
文學に關係のない文學者　二三
(「詩學」アンケート)　二五
感想　二六
(「詩報」創刊號アンケート)　二七
書簡　二八
ゴッホ　三三
詩人座談會　三九


试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

## 研究篇


### Ⅰ

異文　吉田凞生・中村稔　六三

草稿細目　吉田凞生　一五七

遺稿処理史　大岡昇平　二四七

（附）遺稿・書簡初出一覧　二五一

### Ⅱ

作品・伝記年表　吉田凞生・中村稔　二五三

（附）読書記録一覧　三二八

### Ⅲ

家系・郷土　中原思郎　三三五

病歴　深田獅子雄　三六五

中原中也像のなりたち　中村稔　三七九

Ⅳ
書誌・本文篇　堀内達夫　四一九
書誌・参考文献篇　堀内達夫　四四六
（附）全集細目配列対照表　四七五
Ⅴ
解説補遺　大岡昇平　四八三
後記　大岡昇平　四八七
校訂一覧　四九一
固有名詞索引

# 本文補遺

# 青木三造

## 序歌の一

こころまことともあらざりき
不實といふにもあらざりき
ゆらりゆらりとゆらゆれる
海のふかみの海草(うみくさ)の
おぼれおぼれて、溺れたる
ことをもしらでゆらゆれて

ゆふべとなれば夕凪の
かすかに青き空慕ひ
ゆらりゆらりとゆれてある
海の眞底の小暗きに
しほざゐあはくとほにきき

おぼれおぼれてありといへ
前後もあらぬたゆたひは
それや哀しいうみ草の
なさけのなきにつゆあらじ
やさしきあふれゆらゆれて
あをにみどりに變化すは
海の眞底の人知らぬ
涙をのみてあるとしれ

## その二

冷たいコップを燃ゆる手に持ち
夏のゆふべはビールを飲まう
どうせ浮世はサイアウが馬
　チヤツチヤつきつませコツプにビール

明けても暮れても酒のことばかり
これぢやどうにもならぬやうなもんだが
すまねとおもふ人樣もあるが

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

チヤツチヤつきつませコツプにビール

飲んだ飲んだ飲んだとことんまで飲んだ

飲んで泡吹けあ夜空も白い

白い夜空とは、またなんと愉快ぢやないか

チヤツチヤつきつませコツプにビール

# 高橋新吉論

こんなやさしい無辜な心はまたとないのだ。

それに同情のアクチイビティイが澤山ある。これは日本人には珍らしい事だ。

この人は細心だが、然し意識的な人ではない。意識的な人はかうも論理を愛する傾向を持つてゐるものではない。高橋新吉は私によれば良心による形而上學者だ。彼の意識は常に前方をみてゐるを本然とする。普通の人の意識は、何時も近い過去をみてゐるものなのだ。——

彼の魂にとつて現象は殆んど何物でもない。といつてこれは現實を無視してゐるといふのではない。寧ろ彼こそ一番現實の大事な人なのだが、蓋しそれは幻想としてだと先づ言つて置かう。——彼にとつては常に眞理が必要なのだ。それが彼の良心の渴きで、云はゞ彼は自動機械的に現實を材料としての夢想家なのだ。

何時か彼は詩人であるよりも實社會の人であると思つた事はあるかも知れない。彼には自分を詩人だと思ふだけでは安心出來ないものがある。併しそれは彼の夢想が餘りにありの儘の現實を扱ひ得るからで、夢想がかくも現實的であるといふ點で、高橋新吉は人類中非常に特異なものなのだ。けれどもこのことが彼の詩を却々整つたものとさせない重要な原因なのだ。

普通に詩が整つてゐるといふことは、傳統に賴ることから得られるやうだが、高橋新吉は純粹な良心

家で、傳統に賴る事は彼からは墮落としか思へない。彼には歴史も宗教もほんの時間的部分的なものに過ぎない。勿論人間は全的には何も支配することは出來ないことは彼も知つてゐるのだが、けれども彼が生きるとして、時間的なものに不滿であるのは自然の勢ひだ。そして彼が或時詩の中で呟く、「詩の拙い奴は想像力の發達してることで分る。」（この言葉は少し覺え違へてるかも知れない。）

かういふ人は我々の生活の文明的な部面では、隨分變なものかも知れない。例へば、餘り善良なものは却つて惡人であるかの如く怯えるものだといふシェクスピヤの言事は高橋に當嵶るだらう。又、これはほんの私の推量だが、彼が羞む時彼は平氣なので、彼が平氣な時彼は羞んでるのだ。この點高橋新吉は或は不良少年の心理に似てゐるのだが、彼の無意識的な善良さが人々の中に生きてゐるうちにさうなるのは當り前なのだ。

態度や動作によつて皆目評されない人がある。彼は自分をセンチメンタリストと粧ふことがあるかも知れないが、それは彼と人々との齟齬を埋合はせる彼の自然の術なのだ。勿論理想としては、その粧ひもあるよりはない方がよいのだが、六ケ敷いことだ——

（生れしながらの睡みに、そなたよ眠りてあれかし——ボドレル）

## 彼の缺點

彼がヒユマニテイから出發したことは明かだが、立派なヒユマニテイは理論を欲するものであるのか、彼は非常に考へる習慣を持つた。けれども彼のやうに一切を演繹することの出來る人は、ヒユマニテイの實質を見失ひ易い恐れがある。彼はそれを見失つてゐる。

彼の詩のモチーフはヒユマニテイではなく、

言はゞ、「俺は全てが分つて生きてゐるのに、人々は分らないで俺と同一平面上にゐる」といふことのやうだ。彼の詩が扱つてゐるものは何時も普遍的なものだが、それを扱ふ動力は私的感情だ。――私が思ふに、彼の考へる習慣は彼の良心の義務觀念が作つたのだから、彼は考へた後では「一個人としての實踐」をすればよいのだ。つまり忠實な體感をすればよかつたのだが、彼のやうに絶對の要求の强い人はそれを二次的のことと侮り易い。

尤も誰でも熾んに考へた直ぐ後體感的な氣持になれるものではない。大抵の良い藝術家が一通り人生への尺度を持つてから暫く不妊であるのはそれだからであらう。そしてこの不妊期が心臓（ヒュマニテイの實質）を目覺ますものらしい――

彼が考へることは彼の良心を自覺的にするだけで、だから彼はその自覺的になつた良心でする經驗、卽ち修得物を詩にすればよいのだが、彼は餘りに美事に考へたので、考へたことをその儘詩の中に持ちだしたいといふ欲望があるやうだ。――

卽ち彼は行爲の前の義務――認識――の上で實に目覺ましい詩人なのだ。

---

思つたことの五分の一も書けないし、方々無理があつて見せるに耻しいが、

## 手紙

僕は貴兄の好きな無名の者です。僕は貴兄を結果的にといふよりも過程的に見て大好きなのです。二三日前初めて辻氏を訪ねたら貴兄に手紙を出してみるがいゝといはれたので、手紙を書かうとしたのですが、手紙つて奴が僕には六ケ敷いから、過日書いた貴兄についての論文（？）を送ることにします。

なにしろ貴兄が特異で在ることと、僕が論文を纏める才にひどく乏しい上に論文の大體の相手を持たないために隨分變なものかも知れないが、單なる好意で書いたものでも單なる惡意で書いたものでもないのだから、

讀んだら返事を願ひます。

昭和二年九月十五日

高橋新吉様

中原中也

# 詩と詩人

## 一

詩といふものが、人生を打算して生きてゐる根性からは、決して生れるものではない！　一見、その根性は人をして屢々知慧ある態度を採らせるやうに見える。けれど知慧とはそんなものではない！　若しそれが知慧だとしたら、知慧とは千偏一律のもので、千偏一律な知慧なぞといふものが、考へられるか？

私もストイシズムの可なり立派な論據を知らないものでもない。しかし遂に、ストイシズムは詩を生まない！　第一人間を僞善にする。注意せよ、世には甚だ見分け難い僞善がある！

藝術に始源がありとして、それは何だか知つてゐるか？——「叫びたい」ことだ！　而も所謂喜怒哀樂——即ち損得に因つて起る喜びと悲み——を叫びたかつたのではなく、かの生の歡喜だ！　即ち生が自然に溶解する時の寧ろ悲痛な聲だ！　それは抽象的でも具體的でもない、又あらゆる習慣、あらゆる思索の便宜に作られた言葉、あらゆる名辭以前にあるものだ。定型がない。一つの向勢があるばかりのものだ。そして向勢は諸物の形象を時間的に聚集する。それはまた必然の律動を呈す。——それが詩だ。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo